

第91回『農業経営者』セミナー

「コメ問題を斬る～コメ問題のこれまでとこれから～」

▶9月8日

(オンライン配信)

再始動した『農業経営者』セミナーの第二弾は、農業経済学者の小川真如さんを講師に招き、「コメ問題を斬る～コメ問題のこれまでとこれから～」と題して講演いただいた。水田経営者を含む30名余りが参加した。

「コメの問題」と「田んぼの問題」を分けて考えよう

農業経済学者は皆さんの役に立っていますか？ 講演の冒頭に小川さんが投げかけた問いはシュールだった。本題に入ると、コメ問題の本質をトピックごとに質問形式で参加者に問いかけていった。

わが国のコメ問題は、自給達成後は収獲物である「コメの問題」と、生産基盤である「田んぼの問題」がしばしば混同されがちである。議論する相手とその認識がズレているだけで、話がかみ合わなくなるといえる。小川さんの独自の切り口であった。その上で複雑で厄介な事象をも含む「コメ問題」はトピック毎に整理して簡素化するヒントが与えられた。

続いての話題は、著書『日本のコメ問題』（中公新書）に書かれていた「コメ問題の歴史」と「これ

からのコメ問題」についてそれぞれ図表を用いて解説された。コメの自給達成を遂げた後に訪れた「コメ余り」から、水田転作を活用する形で現在我われが向き合っている「田んぼ余り」の先に、人口減少に伴い食料安全保障上必要な水田面積を下回り「農地余り」が生じる未来が予測されるといふ。コメの自給達成以降、コメ余りに続いて、田んぼ余りに悩まされてきた我われは、「農地余り」をも悩みの種にするのか。その議論を始めませんかという投げかけが最後に出された。

質疑応答では、水田経営者から現場で直面している問題に関わる質問が多く投げかけられたり、畑作経営者からはこれまでの疑問が解決したという感想が聞かれたり、参加者それぞれの捉え方が発信・共有され、その後の雑談は延長して練り広げられた。

小川さんは投げかけた問題やトピック毎の議論を自身の活動のなかで継続する旨を紹介し、参加を呼び掛けている。

【編集部より】今後も『農業経営者』セミナーは、オンライン配信にて定期的に開催予定。開催テーマの提案は編集部まで。ご興味のある方はぜひご参加ください。

■第92回『農業経営者』セミナーのご案内

ロシアのウクライナ侵攻でも食料不足が起きない～5つの理由～

開催日：10月6日(木) 19時30分～21時30分
(Zoomによるオンライン配信)

講師：浅川芳裕氏 (農業ジャーナリスト・作家)

参加費：1,500円

【講師プロフィール：浅川芳裕 (あさかわ・よしひろ) 氏】

1974年、山口県生まれ。エジプト・カイロ大学文学部SEM語専科中退。英語、アラビア語通訳・翻訳、ソニー中東・アフリカ市場専門官 (UAEFバイ首長国、モロッコ王国カサブランカ駐在)、『農業経営者』副編集長を経て、現在、農業技術通信社顧問。企業・行政の農業戦略アドバイザー等を兼任。世界の農業・食ビジネス事情に精通し、独自の視点から米国、中東をはじめとする国際問題まで幅広くカバーする。著書：『日本は世界5位の農業大国』(講談社) など多数。

「ロシアのウクライナ侵攻を受け、世界の農業・食料情勢はどう変化しているのか。変化する情勢に対し、ウクライナの農家、世界の農家はどうか対応しているのか。今後の世界、日本の食料は一体どうなっていくのか」スッキリわかるセミナーです。

ロシアとウクライナ産小麦は世界の輸出量の3分の一を占めています。ゆえに、戦禍により両国の生産・輸出が激減するため、世界は食料難に陥るといふ悲観論が広がっています。しかし、実際に食料不足は起きていません。その理由を、最新の情報をもとに、その戦争・政治・貿易・生産・市場の変化の5つの視点から分析します！

講演後に、質疑応答・懇談の時間がございます。ウクライナ情勢、世界の農業・食料問題に関心のあるさまざまな立場からのご参加をお待ちしております。

申込はこちら▶<https://farm-biz-seminar92.peatix.com>

